

○具体的な活動や体験を通して学ぶ生活科の教科書特性や、低学年という発達段階、家庭環境の多様さを踏まえると、生活科の学習は、できるだけ学校で行うことが望ましいと考えます。

○学校での授業を想定した時数と、授業以外の場で行うことが考えられる学習活動の時数を小単元ごとに示しています。それらを足すと、[○+○]で示された単元の配当時数になります。

単元名、ページ数と目標 【配当時数】	学習活動(学校での授業を想定)	授業 時数	学校の授業以外の場 において行うことが考 えられる教材・学習活 動	授業以外 での時数	感染防止策を踏まえた手立て	指導順序を変更することが考えら うる、または次学年、次々学年へ移す ことが考えられる教材、学習活動	
<b>教科書p.2-19</b> <b>[20+2]</b> <b>※通常配当時数(22)</b> ・自分たちが住んでいる町の商店や公共施設などの見学を自分たちで計画し、計画に基づいて探検することができるようにする。 ・町で働く人や町の様子(人・もの・こと)などを観察したり、調べたりすることで、自分たちの地域に関心を持ち、人と関わる喜びを味わうことができるようにする。	<b>○みんなで 町を たんけんだ (P4-5)</b> ・身近な町の様子を思い浮かべておためし探検する。	2			・校区地図を配布し、どんな施設があるかを書き出す。おためし探検できない場合は、子どもが関心のありそうな場所を教師が動画撮影等を行い、その素材をもとにみんなで話し合ってもよい。(撮影に当たっては許可を得る等の配慮が必要)		
	<b>○ふしぎが いっぱい 楽しさ いっぱい (P6-7)</b> ・おためし探検で見つけた町のすてきなところを出し合って情報交換をし、もっと探検したい、行きたい、調べたいという学びに向かう意欲を高めるようにする。	2			・可能であれば、探検先を探して計画するが、できない場合は、探検を想定している場所の方に来校してもらい、インタビューさせてもらったり、手紙で聞きたいことを聞く準備をしたりする。		
	<b>○見たい 聞きたい たくさん あるよ (P8-9)</b> ・町のすてきなところについて対話や学習カードなどをもとに交流を図る。 ・訪問先でのインタビュー内容、持ちものの準備やマナー・ルール・安全などを確認して、グループで協力しながら、町探検の計画をたてることのできるようにする。	2			・直接会って話をできないことも想定し、訪問先で何が知りたいかを確認し、教師は出向いて写真などをとって視覚支援を行い、子どもが思いを膨らませることができるよう準備する。 ・ZOOMやLINEなど活用し、リアルタイムでインタビューしたり、施設の映像を見せることも検討する。		
	<b>○グループで たんけんだ(探検活動) (P10-11)</b> ・計画に沿って(1回目)の町探検をし、町や施設の様子を調べ、働く人たちがそこで出会った人たちとの対話や交流を通して、町のことをまとめることができるようにする。	2			・探検できない場合は、ZOOMやなどオンラインでの交流ができないか等も相手先と調整する。 ・手紙が届いた場合は、必要数コピーする。 ・来校してのインタビューになった場合は、あらかじめ距離などについて確認する。		
	<b>○グループで たんけんだ(まとめ、次回の計画づくり) (P10-11)</b> ・計画に沿って(1回目)の町探検をし、町や施設の様子を調べ、働く人たちがそこで出会った人たちとの対話や交流を通して、町のことをまとめることができるようにする。	3			・話し合いの時は班机にせず、体の向きだけを変えて距離を保つ。		
	<b>○チャレンジしよう (P12-13)</b> ・1回目の町探検を経てさらに詳しく知りたいこと、2回目の町探検で簡単なお手伝いや体験、詳しいインタビューなどを行い、町の様子やそこで働く人々について、より深く気付くことができるようにする。 ・探検活動を振り返り、気付いたことや誰かに伝えたいことなどをまとめる。	3			・探検できない場合は、ZOOMやなどオンラインでの交流ができないか等も相手先と調整する。		
	<b>○こんな ところ に行ったよ (P14-15)</b> ・活動を振り返り、町探検を通して見つけたこと、気付いたことなどをまとめ、学びを深める。	2		さらに詳しく知りたいところをまとめ家庭と連携し、それぞれが再度調べに行く。	1	・子どもたちに必要な写真がないかなどの聞き取りを行い、教師が可能な限り写真、動画を撮りに行く。(撮影に当たっては許可を得るなどの配慮が必要)	
	<b>○町の じまん はっぴょう会 (P16-17)</b> ・町探検で見つけたこと、気付いたことなどを表現することで、自分たちの住んでいる町を理解するとともに、さらに興味・関心を深めることができるようにする。	2		・家庭との連携を図り、町探検での気付きを家の人に話をする。 ・保護者にも協力を依頼し、町探検での出来事を話し合ったり、称賛したりしてもらおう。	1	・発表のしかたについては密接・密集しないように距離をとる。 ・発表の様子はビデオを撮り、感謝の手紙とともにお世話になった方に渡せるよう準備する。	
<b>○ありがとうをつたえおもう (P18-19)</b> ・町探検でお世話になった人に感謝の気持ちを伝える。	2				・直接渡せない場合はビデオメッセージやZOOMなどのオンラインツールも有効な手立てとして検討する。		

発見！  
町へ  
とび出そう

大きく そだて みんなの 野さい	教科書p.20-39 [19+1時間] ※通常配当時数(20)	○こんなの できるかな (22, 23) ・自分の知っている野菜について友だちと話し合い、これから育ててみたい野菜を決めることができるようにする。	2		・友だちとは両手を広げて当たらない距離をとる指示する。 ・時期に合わせていくつかの種を子どもに提示する。	・育てる野菜に応じて他の時期への移行が可能。 例 6月 キャベツ 小松菜 ほうれん草 白ごま 小かぶ オクラ キュウリ トウモロコシ ゴーヤ 7月 キャベツ 小松菜 ブロッコリー ほうれん草 白ごま 黒ごま 8月 小かぶ ニンジン キュウリ トウモロコシ 9月 キャベツ 小松菜 ほうれん草 レタス 小かぶ 大根 ニンジン インゲン 10月 キャベツ 小松菜 ほうれん草 レタス 小かぶ 大根 ニンジン インゲン スナックエンドウ ソラマメ 玉ねぎ	
		○そだてよう わたしたちの 野さい (24, 25) ・種のまき方や野菜の育て方について本で調べたり、専門家に話を聞いたりして、栽培活動ができるようにする。	3		・観察時に密着しないよう植木鉢で育てられる野菜を育て、2m程度程度間隔を空けて植木鉢を設置する。		
		○めざせ！ 野さい名人 (26-29) ・自分たちで決めた野菜の世話をすることで、野菜の育て方や育てる工夫に気付くことができるようにする。また、世話したり、観察したりしながら生長の様子に気付くことができるようにする。	3		観察の時は、設置した植木鉢を動かさず、間隔をあけたまま行き、子どもどうしの距離を確保する。		
		○野さいが たいへんだ (30, 31) ・野菜の世話をする中で、困ったことが起きた時には、友だちと協力して改善策を考えたり、詳しい人に聞いたりして主体的に問題を解決することができるようにする。	2	・困ったことや疑問に思ったことなどについて家庭や地域の人、親戚、親しい人などに聞き取りを行い、その結果を授業で共有する。	1		・模造紙に困ったことを書いておき、付箋などで友だちから考えを貼ってもらうことで接触を避けて交流することができる。 ・話し合いを行うときは、座って距離をとってから行う。
		○もうすぐ しゅうかく (32, 33) ・大きく育ってきた野菜に収穫の期待をふくらませるとともに、野菜を収穫したら何をしたいか友だちと協力して計画できるようにする。	2				・家庭で料理してもらうなどの活動を前提に、課題づくりをかねて保護者と計画をたてるとうい。
		○やったあ！ とれたよ (34, 35) ・育ててきた野菜を収穫し、その大きさや様子を観察する。 収穫の喜びをみんなでわかち合い、調理するなどして食べたり、収穫祭などを開いたりする。	3				・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。
		○野さい名人に なれたかな (36, 37) ・野菜づくりの活動を振り返ることで、野菜の育て方や育てる工夫に気付いたり、これから先も友だちと協力して継続的に野菜を育てる意欲をもったりすることができるようにする。	3				・全体で発表するときは、マイクを活用する。
		○もう一度 チャレンジ (38, 39) ・これまでの経験をもとにして、主体的に冬野菜を育てる計画をたて、継続的に世話をし、収穫後、調理することができるようにする。	1				・冬野菜については、冬休みの課題として、計画したり、料理をしたりしてまとめ、3学期の初めに交流する、といった活動として実施するとうい。
	教科書p.40-65 [14+2時間] ※通常配当時数(16)	○いろいろな生きもの 知っているよ (42, 43) ・自分の身近にいる生きものとの関わりについて、対話を通して自分の経験を伝え合い、生き物を飼うことに対する興味をもつことができるようにする。	1	・幼児期や1年生での学習、及び家庭での飼育体験などから飼育してみたい生き物、見つけたい生き物などについて家の人と話し合う。 ・話し合った内容は、付箋や簡単なミニ学習カードにまとめる。	1	・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。 ・班編成は通路を挟んで行う。	
		○何か いるかな (44, 45) ・身近な場所へ生き物探しに出かけ、様々な生き物がすんでいることに気付くことができるようにする。	2			・手洗い、友だちとの距離や声の大きさなどもルールとして設定する。 ・地域で活動可能な場所を探し、特に制限がなければ、公園などでも活動する。	
		○大切に そだてるよ (46, 47) ・生き物の好きな食べものや、すむのに適した環境を調べて、自分たちで生き物にとって快適なすみかをつくることができるようにする。	1		1	・手洗いの徹底を行う。 ・うがいをさせるときは水が飛び散らないよう気を付けさせる。	

生きもの いっしょに		<p><b>○よく見る…</b> (48, 49)</p> <p>・毎日の世話をする中で、生き物の動きや生態を観察して、成長や変化に気付くことができるようにする。</p>	2	<p>・日常の世話については登校時や休み時間などを活用する。</p> <p>・気付きや発見はいつでもメモできるよう教室に付箋や発見カードを用意し、記入する。</p>		<p>・観察時に密着しないよう指導する。</p> <p>・可能であれば、1人ひとつ、虫ごやペットボトルを準備し、それぞれが観察できるようにし、密着を避ける。</p>
		<p><b>○ふしぎなこと発見！</b> (50, 51)</p> <p>・毎日の世話をする中で発見した不思議なことを、言葉や絵で表現して友だちに伝えることができるようにする。</p>	2			<p>・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。</p> <p>・班編成は通路を挟んで行う。</p>
		<p><b>○だっこしてもいい？</b> (52, 53)</p> <p>・ハムスターやウサギ、モルモットなど小型、中型の哺乳動物に関心をもって触れたり遊んだりすることで、その特性に気付くことができるようにする。</p>	2			<p>・触れ合った後は手洗いをしっかりする。</p> <p>・飼育ケージに入る場合やクラスで飼っている生きものに触れる場合などは、人数を制限し、活動を分散するなどの対応を行う。</p>
		<p><b>○よろこんでくれるかな</b> (54, 55)</p> <p>・哺乳動物の飼い方や世話の方法を調べ、関心をもって育てることができるようにする。</p>	1			<p>・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。</p> <p>・班編成は通路を挟んで行う。</p>
		<p><b>○教えてあげたいな</b> (56, 57)</p> <p>・これまで育ててきた生き物の成長の様子を振り返り、自分なりの表現で工夫してまとめ、生き物を紹介し合うことができるようにする。</p>	2			<p>・ホワイトボードなどを活用し、視覚的にも理解を促す。</p> <p>・状況が許されない場合、職員に対して伝える場の設定をする。</p>
	<p><b>○ずっといっしょにいたいけれど…</b> (58, 59)</p> <p>・世話をしてきた生き物たちのこれからを考え、今後も生き物や命を大切にしようとする気持ちをもつことができるようにする。</p>	1			<p>・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。</p> <p>・班編成は通路を挟んで行う。</p> <p>・生き物を持ち帰る場合には、保護者の了承を事前に得ておく。</p>	
夏休みに したい ことは…	<p>教科書p.66-73 【6+4時間】 ※通常配当時数(10)</p> <p>・夏休みにしてみたいことやどのように過ごしたいかを考えて、計画を立てることができるようにする。</p> <p>・活動の記録をもとに、友だちや先生に夏休みの思い出をわかりやすく伝えられるようにする。</p>	<p><b>○夏休みにしたいことは…</b> (66, 67)</p> <p>・してみたいことやどのように過ごしたいかを考えて、夏休みの計画を立てられるようにする。</p>	1	<p>・夏休みのチャレンジや頑張リカードなどは家庭と連携して作成し、2学期の初めにクラスで共有する。</p>	1	<p>・地域によって夏休みが短縮となることを想定し、チャレンジすることを考えられるよう計画を立てる。</p>
		<p><b>○さあ 夏休みだ！</b>(68, 69)</p> <p>・夏休みを楽しみながら過ごすとともに、生活や活動についてわかりやすく記録する。</p>	1	<p>夏休み中の活動について自分なりの方法でまとめる。</p>	1	<p>・実態を踏まえてどのようなことを保護者に依頼するかを事前に学年団で協議しておく。</p>
		<p><b>○どう やって つたえようか</b> (70, 71)</p> <p>・夏休みに記録したことをもとに、わかりやすさ伝わりやすさを考えて発表の準備をすることができるようにする。</p>	2	<p>・家庭との連携を図り、家の人と話し合いながら夏休みのことを絵日記やポスターなどにまとめる。</p>	2	<p>・夏休みが短期間になった場合、ある程度家庭で準備ができるよう手立てを提示する。</p> <p>・全体で発表するときは、マイクを活用する。</p>
		<p><b>○わたしの 夏休みはね…</b> (72, 73)</p> <p>・夏休みの思い出について、相手にわかりやすく、思いをこめて発表することができるようにする。</p>	2			<p>・1人に1枚模造紙半分程度の紙を用意し、それぞれが発表を聞いて気付いたことなどを付箋に書き、感想の交流を図る。</p>
教科書 p.74-95 【16+2時間】 ※通常配当時数(18)	<p>・身の回りにある材料を利用して、簡単な仕組みで動くおもちゃを工夫してつくり、その面白さや見えない力の不思議さに気付くことができるようにする。</p> <p>・みんなで協力して遊び方を工夫しながら楽しむことができるようにする。</p>	<p><b>○どんな こと が できるかな</b> (76, 77)</p> <p>・身の回りにある材料から発想した遊びを楽しむ。より楽しく遊ぶ方法を工夫して考えることができるようにする。</p>	1	<p>・家庭との連携を図り、家の人と話し合いながら、つくりたいものを考えたり、自然の材料を集めたりする。</p>	1	<p>・材料については基本的に共有せず、それぞれ家庭から持ってきたものを使用する。</p> <p>※家庭環境に配慮し、用意できない子には教師が材料を提供する。</p> <p>・密着、密接の状況になりやすいため、場合によっては一緒に遊ぶことを避ける。</p>
		<p><b>○こんな おもちゃは どうか</b> (78, 79)</p> <p>・十分に親しんだ材料を使って、動くおもちゃをつくる。</p>	3			<p>・密着、密接の状況になりやすいため、場合によっては一緒に遊ぶことを避ける。</p> <p>・ロープで場所を区切るなどして適切な距離を設定する。</p>

あそびの  
たつ人  
あつまれ

<p><b>○おもちゃ けんきゆうじよ (80, 81)</b> ・同じ種類のおもちゃをつくる友だちと研究所(グループ)をつかって、一緒に試行錯誤しながらおもちゃづくりをする。</p>	3		<p>・グループで活動する場合は、距離や声の大きさなど、これまで習慣化してきたことを確認する。</p>	
<p><b>○もっと パワーアップ! (82, 83)</b> ・自分のつくったおもちゃを試して、もっと高くもっと速く動くような改良をしたり、さらにきれいに見えるような工夫をしたりするようにする。</p>	2		<p>・直接的な会話をなるべく避け、気付いたことなどは付箋に書き、アドバイスする。</p>	
<p><b>○あそびの 広場をつくろう (84, 85)</b> ・それぞれがつくったおもちゃを持ち寄って遊べる「遊びの広場」を計画し、みんなで協力して準備や会場づくりをできるようにする。</p>	2		<p>・グループでできる状況でなければ、それぞれで計画する。 ・ある程度可能であれば、距離をとった話し合いの形で進めるが、役割を分担し、個別に作業して最後に合わせるというように、密接する時間をなるべく減らす。 ・個人でつくった場合は、それぞれ机の上に準備をする。</p>	
<p><b>○あつまれ! あそびの 広場に (86, 87)</b> ・みんなで企画し準備してきた「遊びの広場」で、一緒に楽しく遊ぶことができるようにする。</p>	2		<p>・グループ活動やあそびの広場ができない場合は、各机におもちゃを置き、順番に遊んでまわる。</p>	
<p><b>○1年生を しょうたいしよう (88, 89)</b> 「遊びの広場」に1年生を招待し、一緒に楽しく遊ぶことができるようにする。</p>	2		<p>・状況によって招待ができないときは、職員に参加を依頼する。また、少人数であればできるだけよなら1.2年生合わせて20名程度の人数になるよう調整する。</p>	
<p><b>○楽しく あそんだね (90, 91)</b> ・これまでの活動を振り返り、身近にある物を使って遊ぶことの楽しさに気付くとともに、これからもみんなと協力して遊びたいと思う気持ちをもつことができるようにする。</p>	1	<p>・家庭との連携を図り、家の人と話し合いながら振り返りカードをかく。</p>	<p>・全員が同じことをすると接触の機会が増えるため、役割分担しておくことよ。</p>	
<p><b>教科書p.96-113 [11+3時間] ※通常配当時数(14)</b> ・自分や友だちのよいところを出し合うことで、自分でも気付いていない長所に気付くことができるとともに、自分自身の成長や自分のがんばりにも気付くことができる。 ・自分が大きくなるには多くの人に支えられてきたことに気付くことで、感謝の気持ちをもち、これからの生活をより意欲的にしていこうという考えをもつことができるようにする。</p>	<p><b>○いいところ 見つけた (98-101)</b> ・友だちと互いのよいところを出し合い、今の自分について関心をもつことができるようにする。</p>	2		<p>・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。 ・班編成は通路を挟んで行う。</p>
<p><b>○一番の 思い出はね... (102, 103)</b> ・自分の成長に関心をもち、これまでの思い出について振り返ることができるようにする。</p>	1		<p>・話し合いをするときは班机にせず、体を向ける方向だけを変えて行う。 ・班編成は通路を挟んで行う。</p>	
<p><b>○わたしの ことしらべたい (104, 105)</b> ・自分のいいところや思い出から認識した、自分のがんばってきたことや成長について、家の人や身近な人へのインタビューを行い、成長の様子を知ることができるようにする。</p>	2	<p>・家庭へ協力を依頼し、インタビューなどを行う。 ・家の人と話し合って学習カードにまとめる。</p>	<p>・同居している家族、家の人に限ってインタビューを行う。</p>	
<p><b>○いろいろな ことが あったよ (106, 107)</b> ・自分なりの方法で自分の成長の記録をまとめ、それを用いて自分の成長について考えることができるようにする。</p>	2		<p>・グループでできる状況でなければ、それぞれ個人活動でまとめる。 ・ある程度可能であれば、距離をとった話し合いの形で進めるが、実物投影機などを用いてそれぞれの座席にしながら交流するなど、密接する時間をなるべく減らす。</p>	
<p><b>○わたしの すてきを見て ください (108, 109)</b> ・自分の成長についてまとめたことを発表し、自分を支えてくれた人への感謝の気持ちを表すことができるようにする。</p>	2	<p>・クラスでの共有、発表、伝え合いと並行して、家庭でも家の人と自分の成長について話し合う。</p>	<p>・マイクを使って聞こえやすい環境を作る。 ・例年参観などで行うことが多いが、密になるため実施できない。ビデオなどを使って録画しておき、可能であれば、DVDを各家庭ごとに配布できるようにする。</p>	
<p><b>○たくさんの 人のおかげだよ (110, 111)</b> ・自分を支えてくれた人への感謝の気持ちを、直接表すことができるようにし、これからのことについて意欲的に取り組むことができるようにする。</p>	1		<p>・直接渡せない場合はビデオメッセージなど有効な手立てとして検討する。 ・ビデオメッセージの交換ができるとなおよい。</p>	

わたしの  
すてきが  
はばたく

<p>○これからのわたしは… (112, 113)</p> <p>・3年生に向けての期待や自覚をもつとともに、 これからの自分がやりたいことを考え、夢をもつ ことができるようにする。</p>	<p>1</p>	<p>・クラスでの共有、発 表、伝え合いと並行し て、家庭でも家の人と 自分の成長について 話し合う。</p>	<p>1</p>	<p>・ある程度可能であれば、距離を とった話し合いの形で進めるか、実 物投影機などを用いてそれぞれの 座席にしながら交流するなど、密接 する時間をなるべく減らす。</p>
---	----------	---	----------	--